

日本のお金にはどんな歴史があるの？

江戸時代の銭貨

徳川幕府は幕府を開いた時から金貨、銀貨についてはとても早く貨幣をつくりました。けれど、銭貨(せんか)においては外国から輸入したお金をしばらくは使い、その後、やっと銭貨、寛永通宝(かんえいつうほう)をつくりました。寛永通宝はその後約200年間、全国各地の「銭座」(ぜにざ)においてつくられ、広く使われました。その後、寛永通宝四文銭(かんえいつうほうよんもんせん)や、銅一文銭(どういちもんせん)、原料がそまつな天保通宝百文銭(てんぼうつうほうひゃくもんせん)などがつくられました。



寛永通宝
(かんえいつうほう・1636年)銅製



寛永通宝四文銭
(かんえいつうほうよんもんせん) - 表面 -
(1768年)真鍮製 (しんちゅうせい)



寛永通宝四文銭
(かんえいつうほうよんもんせん) - 裏面 -
(1768年)真鍮製 (しんちゅうせい)



天保通宝百文銭
(てんぼうつうほうひゃくもんせん)
(1835年)銅製 (どうせい)

写真：日本銀行金融研究所貨幣博物館